

会 議 録

会 議 名	第51回野田市市民活動支援センター運営協議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 令和5年度市民活動支援センターの登録状況について (公開)</p> <p>(2) 令和5年度市民活動支援センターの利用状況について (公開)</p> <p>(3) 学習会（NPO法人）の開催結果について（公開）</p> <p>(4) 野田夏まつり躍り七夕（野田よさこいフェスタ2023）の開催結果について（公開）</p> <p>(5) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2023」第6回市民活動元気アップふえすたの開催について（公開）</p> <p>(6) 令和6年度実施分野田市市民活動団体支援補助金について（公開）</p> <p>(7) 市民活動支援センター運営協議会委員の改選について（公開）</p>
日 時	令和5年10月25日（水）午後2時から午後4時まで
場 所	野田市役所2階 中会議室1、2
出席者氏名	<p>会 長 竹澤 勇司</p> <p>副 会 長 立山 喜弘</p> <p>委 員 武智 多恵子、岩井 勝治、北倉 恵美子、名代ちよ子、芝田 栄太郎</p> <p>事務局等 副市長 今村 繁、市民生活部長 宮澤 一弥、市民生活課長 須賀 良平、市民生活課長補佐 岡田 敦子、市民生活課主任主事 山田 典生、主任コーディネーター 釜田 正雄、コーディネーター 荒井 ハツヨ、コーディネーター 渡邊 勝男、コーディネーター 松本 貴美江、支援補助員 向佐 美知子</p>

欠席委員氏名	加藤 眞智子
傍聴者	無し
議事	第51回野田市市民活動支援センター運営協議会の会議の概要は、次のとおりである。
<p>1 開会</p> <p>事務局から開会を宣言。</p> <p>会議の成立について報告。</p> <p>会議録作成のため、録音をすることについて了解を得た。</p> <p>2 副市長挨拶</p> <p>今村副市長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>報告事項(1) 令和5年度市民活動支援センターの登録状況について (資料 報告 1) - 1～2)</p> <p>議長 (竹澤会長)</p> <p>報告事項(1)について、説明を求めた。</p> <p>向佐支援補助員</p> <p>報告事項(1) 令和5年度市民活動支援センターの登録状況についてを説明した。</p> <p>議長 (竹澤会長)</p> <p>報告事項(1)について、委員に意見を求めた。</p> <p>各委員</p> <p>特に無し</p> <p>議長 (竹澤会長)</p> <p>意見がないようなので、報告事項(1)については、以上を報告事項とする。</p> <p>報告事項(2) 令和5年度市民活動支援センターの利用状況について (資料 報告 2) - 1～3)</p> <p>議長 (竹澤会長)</p>	

報告事項(2)について、説明を求めた。

渡邊コーディネーター

報告事項(2) 令和5年度市民活動支援センターの利用状況についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(2)について、委員に意見を求めた。

立山委員（副会長）

フリースペースの利用について、休みの時でないで貸出しをしていないのか。

釜田主任コーディネーター

フリースペースについては、土日でも夜間でも貸出ししている。利用してほしい。

センターは、平日4時まで職員がおり、手続ができる。午後5時以降は、2週間前の予約となる。総合福祉会館の利用の関係で、土日の午後5時以降、夜間の場合については、改めて総合福祉会館の使用申請等の手続が必要なため、あらかじめ相談してほしい。活動が活発になったことで、会議室の利用が増加したのは、良いことだと思う。

立山委員（副会長）

8階の旧レストラン会議室の活用方法は、まだ決まっていないのか。

今村副市長

まだ決まっていない。レストランとしての利用を考えている。運営事業者等については、地元の方々に特に若い人達が参加して実現できればと思う。PR推進室がメインで検討しているが、具体的などころまでは決まっていない。

議長（竹澤会長）

相談件数の中で、協働のまちづくりに関して1件、相談があったということで、具体的な内容が分かれば伺いたい。

釜田主任コーディネーター

市役所との協働を考えたいが、どのようにやっていったらいいのか。一般的な相談として、担当課と市民活動団体の中継ぎということで、案内をしている。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(2)については、以上を報告事項とす

る。

報告事項(3) 学習会（NPO法人）の開催結果について

（資料 報告 3）

議長（竹澤会長）

報告事項(3)について、説明を求めた。

荒井コーディネーター

報告事項(3) 学習会（NPO法人）の開催結果についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(3)について、委員に意見を求めた。

参加人数がそう多くないと思ったかもしれないが、かなり細かく聞きたいことが聞けたという感想を、参加者の方から聞くことができたので、良かったと思う。複式簿記になると手間が掛かるので、普通の団体の会計にほとんど取り入れていない。支出は支出、収入は収入で簡単に済ませている。今は、パソコンで自動で計算できるので、きちんとした指導の下覚えてもらえば、きちんとした会計ができるようになる。こういう学習会が必要だと思う。ありがとうございました。

岩井委員

私も、NPO法人の報告には苦勞した記憶がある。

最終的には、ほかの経営事務所に頼むとか、誰か経理の分かる人を頼むなどしているのか。

荒井コーディネーター

補助金などをもらっているような大きな法人では、頼んでいるところもある。普通の法人は、ほとんど自分たちでやっている。会計をオープンにしたがらないというのもあって、なかなか参加も難しい。会計基準に沿った活動計算書という計算方式を使用して、活動内容、事業報告とその会計報告をするが、難しいので単式でやっているところもある。複式簿記は、2、3年しっかり行わないと理解が難しいが、法人のためにはできるようになった方が良い。

岩井委員

経理をきちんと読み取れて、自分の法人が、これでいいのか悪いのか、改善点があるのか、そこまで理解することが経理だと思う。大変だろうが、よろしくお願いしたい。

荒井コーディネーター

複式簿記をNPO法人の会計基準にする提案がされた理由は、NPO法人が企業の寄附をもらいやすくするためにというのが理由であると学習会で聞いた。企業の皆様がこの団体の経理を見て判断されると思う。

武智委員

もっとNPO法人を社会的に増やす必要がある。もっと手続を簡素化できるのであれば良い。唯一、市民が法人を持てる手段なので、簡素化していかななくてはならない。大変な思いでNPO法人を獲得したという歴史を知っているだけに、増やしてほしい。とても大切だと私はずっと思っている。

議長（竹澤会長）

今の武智委員の話は、非常に説得力があった。

団体から会計関係の簡略化についての話を聞いているか。

荒井コーディネーター

複式簿記については、団体の財政状況がよく分かるので、岩井委員が言われたように覚えてしまえば、そんなに難しくなく、処理しやすいと思うが、途中で挫折してしまう。ほかには、事務局が継続していないなど様々な問題がある。会計関係の簡略化については、特にない。

今は、無料の会計ソフトなどがあり、基礎を覚えれば会計ソフトに入力することで会計処理ができるようになっている。北倉委員が所属している野田子ども劇場は、とても良い会計処理をしている。北倉委員も関わっていると思うが、見事な会計処理をしている。

岩井委員

一生懸命サポートをしていこうと思う。

議長（竹澤会長）

いろいろ話に出たが、今までやったことがないことに挑戦していきながら、自分たちも自信をつけていくということ。野田市は、なかなかNPOの数字があまり伸びていないというところがある。センターの御協力のもとNPOが一つでも増えることを願う。

ほかに意見がないようなので、報告事項(3)については、以上を報告事項とする。

報告事項(4) 野田夏まつり躍り七夕（野田よさこいフェスタ2023）の開催結

議長（竹澤会長）

報告事項(4)について、説明を求めた。

釜田主任コーディネーター

報告事項(4) 野田夏まつり躍り七夕（野田よさこいフェスタ2023）の開催結果を説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(4)について、委員に意見を求めた。

名代委員

参加させていただきありがとうございました。毎日、野田市の防災無線では熱中症予防のため、必要なとき以外は外に出ないでくださいと放送をしている中で、どうして外でやるのかと思っていた。この日は運よく涼しかったが、私が所属している天空は障がいのある方が多いので、体調を心配した。

今後もしこんなに暑かったら、躍り七夕の開催自体、首をひねるところが参加者としてある。「無理に参加しなくてはいけないのか」ということで、障がい者のお母さんから連絡、提案を頂いた。予定としては、外の道路でのよさこいというのは、前は音がうるさいということだった。今年は、音が小さくて踊り手が自分の音が聞こえなくて、踊りが分からなくなって、少しずれていたということがあった。

天空は、障がい者が多いため、できれば櫛のホールなど、冷房が効いているところで踊りたい。外で踊るなら夜8時過ぎぐらいの本当に日が落ちてからでないと難しい。開始時間が6時というのは、集合時間は午後4時とか午後5時になる。暑い中駐車場から櫛のホールまで歩くだけでも、体調面が心配だったので、検討してほしい。よろしくお願いします。でも楽しかった。ありがとうございました。

釜田主任コーディネーター

交通安全協会の方とも協議させていただいて、参加するお子様たちの体調等については、気を付けなければならないので、来年度以降について相談させてもらう。

北倉委員

野田子ども劇場は、よさこい踊り協議会に参加している。本当に4年ぶりの

お祭りを楽しんだという感想だった。

一つ意見がある。これはけやき夢ロードのみならず全体的に、歩道と踊りの安全区別をするパイロンやガードマンが、上手に機能していなかった。「踊り子と通行者がぶつかりそうで危険だった」という意見があった。来年は、パイロン等の配置を考え直したらいいかと思う。

釜田主任コーディネーター

安全管理については、配慮しなくてはいけないので、来年の課題として、野田よさこい躍り協議会とも相談する。

議長（竹澤会長）

よさこいの参加団体は、5団体。それぞれの団体が今回とは別に連携しながら、共同で催し物を行うようなことはあるか。

北倉委員

ある。野田組は、野田文化研究会の踊り子隊と事前に計画を立てて、一緒にイオンノア店等から依頼があったときに、踊っている。1団体だと演舞時間が短い、協力し合う事で演舞時間を確保できる。

議長（竹澤会長）

関宿地域のよさこいの団体は活動をしているか。

荒井コーディネーター

今も活動はしているが、今回は暑いから参加しなかったのではないかと思う。

よさこい躍り協議会は、NPO法人野田こども劇場野田組、NPO法人野田文化研究会野田おどりこ隊、天空、嬢SHOW輝龍、YOSAKOI連桜舞の5団体プラス、よさこいソーラン野田白龍会、YOSAKOI 荅の7団体でスタートしました。そのうちなかなかうまく一緒に活動ができなくなり、現在の5団体で活動している。この5団体は、市のPR推進室からの依頼があり、「野田のPR推進隊」という名もあり、いろいろなイベントに参加している。

名代委員

天空も誘ってもらっているが、人数がそろわなかったりしている。

荒井コーディネーター

願GALA!という雨乞いの曲を3年前に作って、市外で野田市をPRしている。すごく活動範囲が広がっている。

議長（竹澤会長）

ありがとうございます。よさこいソーランの皆様の活動に当たって、安全面には十分に注意していただきたいと思います。これからも頑張ってもらいたい。

ほかに意見がないようなので、報告事項(4)については、以上を報告事項とする。

報告事項(5) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2023」第6回市民活動
元気アップふえすたの開催について

(資料 報告 5)

議長（竹澤会長）

報告事項(5)について、説明を求めた。

釜田主任コーディネーター

報告事項(5) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2023」第6回市民
活動元気アップふえすたの開催についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(5)について、委員に意見を求めた。

今回、会場をコンパクトに設定した。団体の実演、感染対策、まめメールの
配信、スタンプラリーについて説明がありました。市報の1面に掲載され配布
される。友人や団体に声かけしてフェスティバルを盛り上げて欲しい。

名代委員

参加団体にパンフレットはもらっているが、スタンプラリーが入っていなかつた
ような気がする。当日受付で、スタンプラリーの用紙だけもらうことはでき
るのか。スタンプラリー各場所に、用紙を置くことはできるのか。

釜田主任コーディネーター

パンフレットは、5,000枚印刷した。当日用に2,000枚印刷してスタンプラリ
ーとアンケートを入れて、受付と各ブースの受付に配架する。参加団体の当日
の受付に各団体の参加人数の報告をしてあるため、出席人数分を渡す準備はで
きている。

立山委員（副会長）

スタンプラリーは、今年はただ判を押して帰ってしまうのではなく、その中
で見たり、体験して帰ってもらうように指導すると聞いている。そのための担
当者は別に付けるのか。

釜田主任コーディネーター

スタンプラリーについては、第2回の参加団体打合せ会議で、10会場の参加団体の皆様に協力してもらい実演展示、事前体験等に支障のない範囲でやってもらうことになっている。来場者が勝手に押して帰る事がないようにしてほしい。実演、体験をしてからスタンプを押してもらうようにしてほしい。ただ、あまり厳しくならないように判断してほしい。トラブルが起きないように、事務局の担当者が巡回したりしながら、臨機応変に対応していく。

立山委員（副会長）

担当者は専属ではなく、参加団体の中で持ち回りでやってほしいということか。しかも、あまり無理強いしてトラブルにならないように、事務局が指導しているという感じか。それから歳末助け合いの募金箱というのは設けるのか。

釜田主任コーディネーター

歳末助け合いの募金箱に関しては、社会福祉協議会の担当となるので、分からない。

議長（竹澤会長）

説明があったが、トラブルだけは避けたいということで、スタンプラリーの方も皆様の御協力をお願いしたいと思う。

北倉委員

10月15日号の市報で、市民活動ふれあいフェスティバル2023の開催日時が、本文を読まないで11月19日10時からと書いていないため分からない。私は、すごく探してしまった。恐らく見当たらないと思う人が大勢いたと思う。日時は大きくしないと分からない。レイアウト構成が問題だと思う。今後検討してほしい。オレンジのパンフレットですが、このパンフレットは楽しそうに見えない。例えば、「親子で楽しむコーナーで小学生が遊べるからおいで」、「物知りクイズで君はできるか挑戦しないか」や、「老夫婦でも楽しいですよ」等、誰をターゲットにするか定まっていない。市民全員がターゲットになるが、「野田を満喫しようよこの1日で」などタイトルがキャッチーではない。真面目過ぎてしまっていると思う。

釜田主任コーディネーター

参加団体の皆様の知恵を結集していただいて、限られた紙面ということで、これ以上文言を入れるのは難しい。もう少し見やすく読みやすい紙面をと思っ
てはいるが、基本的に、どこでどの団体が何を何時から何時まで行うというのは最低限入れようとするのが難しい。御意見は、次回参考にさせていただきたい

と思う。

芝田委員

紙面が限られているから難しいだろう。

岩井委員

運営する人用のチラシだ。

釜田主任コーディネーター

以前の元気アップふえすたの時には、各会場ごとのカラーチラシを作って会場ごとにアピールしようという試みも行った。それを復活させて、会場ごとに写真を掲載したりしながら、うまくできればと思う。

北倉委員

チラシの見開きと最後のページは良いが、正面のページがつまらない。なぜ2023をこんなに大きくしなくてはいけないのか、開催日時を大きくした方が良いと思う。もっと楽しそうにしたらどうかという意見である。

釜田主任コーディネーター

チラシの作成段階、導入段階で、特に子ども劇場の会員の中で、チラシを作成するための優れた技術を持っている方がいるようなので、良い発想を頂きたい。是非紹介してほしい。

北倉委員

行きたい人は開催日時を知りたい。このチラシでは、全然分からない。

宮澤部長

市報の関係では、御指摘のとおり読んでから分かるのではなく、直感的に見て分かるというような、フェスティバル2023のところに斜めに気付きを入れてみるなどいろいろなやり方があると思う。今回もかなりイラストを入れるなど工夫はしていた。皆様の意見はPR推進室に伝える。ありがとうございます。

北倉委員

イラストが入っているとイラストに引っ張られてしまう。文言も「楽しんで体験」とはって何が？とってしまう。ここに11月19日を入れてくれれば良かった。

芝田委員

イラストの効果はある。ただ日付の問題は残る。

立山委員（副会長）

今回は、何人ぐらいの来場者を見込んでいるのか。

釜田主任コーディネーター

団体の参加も含めて約1,000人を目標としている。

立山委員（副会長）

駐車場は、東葛飾研修所と研修所前のところか。

釜田主任コーディネーター

東葛飾研修所と反対側の研修所前にあるキッコーマン柳沢寮の跡地、この2か所を臨時の駐車場ということで考えている。

議長（竹澤会長）

今回この市報を手にとった人は、皆様必ず目を通していただけたらと思う。北倉委員の力を借りて、来年のチラシは大きく掲載してほしい。

北倉委員

是非見やすく、よろしく願いしたい。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(5)については、以上を報告事項とする。

報告事項(6) 令和6年度実施分野田市市民活動団体支援補助金について

（資料 報告 6）

議長（竹澤会長）

報告事項(6)について、説明を求めた。

須賀課長

報告事項(6) 令和6年度実施分野田市市民活動団体支援補助金についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(6)について、委員に意見を求めた。

芝田委員

私が所属してる団体は、応募しない予定でいる。こういう補助金はなじみがないので、補助金があることを各団体に示すことは良いことだと思う。

名代委員

このアンケートを基に集約して、各団体が困っていることに解決案を示すという事を考えているのか。市としては、お金を出すぐらいしかないような気が

する。お金ではなくほかに困ったことという、次のリーダーがないなどがあると思うが、アンケート後の結果や補助金の日程も含めて、今後どうするか考えているのか。

須賀課長

市の補助金が活動団体の活動に対して、一番効果を発揮できているかどうか、また補助金の制度で何かしらの制約が原因で活用できないなど、もう少し変えたらより良くなるのではないかなど、団体によって意見があるかもしれないので、補助金の現在の状況、団体の考えを伺いたいということがこのアンケートの趣旨となっている。またアンケートに自由記入欄を設け、現在の団体の状況確認をさせてもらい、集約して見てもらおうと考えている。アンケートは、協議会で承認いただきましたら必要な記載の見直し等を行い、11月下旬を目途に集計したいと思っている。順調にいけば、年内には取りまとめできると考えている。委員の皆様には別途送付し、次の協議会で意見を伺いたいと考えている。

立山委員（副会長）

この対象は市民活動団体全てか。

須賀課長

全ての団体ということで考えている。

議長（竹澤会長）

市民生活課の方に、直接市民から補助金関係で問合せはあるか。市民活動支援センターが中心となっているのか。

須賀課長

市民生活課には直接この補助金についての質問はあまりない。市民活動支援センターの方が窓口となり団体の対応をしてもらっている。

議長（竹澤会長）

活動の団体の講演会費、講師謝礼等は補助金の対象になっているか。

須賀課長

外部講師に講演などを依頼した謝礼については対象となっている。

議長（竹澤会長）

何か、こういうものを経費で使えばいいなという意見があるか。

須賀課長

市の窓口には、なかなかそういった声が届かない。各団体の考えであったり、提案などがあつた場合には、集約、把握させていただきたい。

釜田主任コーディネーター

助成金の学習会を通して、市の補助金の概要説明を行った。

高齢になり、活動に参加するため自動車を使用しているが、ガソリン代やバス代などの交通費や貸切りバスの費用、活動中の自分たちの飲物代といった日常的な活動に関する経費は該当するののかという質問がある。これらについては対象外となり、先ほど言った講演会の講師謝礼、講演会の講師に出す飲物代は対象となる。

北倉委員

補助金制度を見直したらどうかという意見を持っていた。このアンケートを答えても、補助金の制度は変わらないように感じた。補助金額は変わらないのか。

須賀課長

今回のアンケートでは、補助金が団体活動に対してしっかり支援できているか否かを伺いたい。支援できていないのであれば、改正していかななくてはならないため、団体の意見を把握することを目的としている。補助金額も含めて検討すべきことだと考えている。

北倉委員

では、このアンケートは、補助金を利用した団体のみにアンケート用紙を渡すのか。

須賀課長

先ほども答えたように、今回は全団体を対象と考えている。交付した団体については、使ってみた感想やどうすればより発展するのかという意見、使ったことがない団体には、そもそも知っているが使わないのか、それとも補助金の存在を知らないなどの状況を把握させていただきたい。それから必要な修正点の検討を考えている。

北倉委員

分かりました。私が思っていたのは、組織基盤強化支援は1団体10万円、希望すれば3年を限度に継続申請ができるという内容で、希望しなければ1年で終わるという理解でよいか。ほとんどの団体が、3年継続して申請をしている状況があり、本当に3年間支援が必要だったのか疑問に思っている。1回でよければ1回でいいと思う。公的なお金を使うということは大変なことなので、何も無理をして補助金をもらわなくても良いと思う。1年間だけ申請する団体

が増えることで補助金を受け取れる団体数が増えるのかという意味で聞いた。

芝田委員

申請すれば3年。常に3年間、同じ団体が選ばれるということは確定していない。毎年申請して、常に一つの団体が3年続けてもらうことに限定していない。1年申請したら、3年継続するのか。

北倉委員

一番最初に審査が通ったら、3年継続する。1年ごとの審査ではない、

岩井委員

それは違うと思う。

芝田委員

毎年申請書を審査する。

釜田主任コーディネーター

組織基盤強化支援については、当該申請書を毎年出す。最大3年間課題を解決するのに、どれくらいのお金が必要か。私の記憶では、組織基盤強化支援で1年で終わったのは1団体だけである。その団体は、「今の団体の最大課題はこれで、これが解決できれば、あとは自分たちでやっていきます」という申出があり、1年にした。それ以外の団体は、設立間もないためいろいろな備品等が不足しているので、3年かけて実施するための全体計画を提出してもらう。1年目は書類審査とプレゼンを行い、2年目以降については、書類審査となり単年度ごとに決定していくという流れになる。

芝田委員

毎年新規が3団体あるということによいか。

釜田主任コーディネーター

基盤強化は、新規3団体と継続3団体で6団体。来年は、6団体が継続で新規が出たら、最大9団体が補助の対象になる。

芝田委員

勘違いをしていた。

立山委員（副会長）

1年ごとになっているが、自分たちは1年で良いと言えばそれで終わりか。

釜田主任コーディネーター

そのとおりである。

釜田主任コーディネーター

課題を解決するには、何年もかかる。それは1年で10万円だけだから、3年かかるというのも確かにあると思う。20万円なら2年で40万円。極端な話だが、30万円なら1年で済むという話もある。先ほど課長が説明したように、それぞれの団体が考えている課題は異なるので、解決するための平均的年数を見て、現在は5年未満の団体は、年間10万円ずつで3年最大30万円となっている。以前は、設立5年以上の団体は、1回の申請で30万円だったが、5年未満の申請団体が多く、5年以上が少なくなったという状況であったため、年間150万円の中で、5年以上の団体の受付件数は1件で変わらないが、補助金額を30万円から20万円にすることで、5年以上の団体分で30万円が残る。その金額を5年未満の団体に振り替えることで申請件数を増やすことができた。よって、5年以上の団体が3団体、5年未満の団体が9団体、最大12団体の補助金申請ができることになった。

補助金制度を制定してからある程度年数も経過してきているので、これが実情に合っているかどうかを今回のアンケートで伺って、このままでいいのか、金額を変えるのか、年数を長くするのか、短くするのかという制度を見直したい。今まで市民活動支援センターの職員が各団体から聞き取りしている状況も参考に、制度の見直しをしたい。

北倉委員

結局、新しい若い団体を育てていこうということで、走り出したばかりの団体に手厚いということで理解しているが良いか。

釜田主任コーディネーター

そのとおりである。当初の制度では、5年未満は1団体で、5年以上は3団体であった。だから5年未満が10万円1団体で、5年以上が30万円3団体だったが、5年以上の金額を30万円から20万円に減額し、それを5年未満に割り当てた。これから考えたときにそれでいいのかどうかを判断したいということだ。

宮澤部長

団体を立ち上げるのは確かに大変だが、立ち上げた後、それを継続するのはもっと大変であるというような話もある。さらに後継者は、どこもいないというようなことも聞いている。補助金でどこまで出できるのか分からないが、主任コーディネーターの話のとおり各団体が抱えている問題をできるだけあぶり出して、できることはないか、何があるのかということを確認しようというの

が今回のアンケートの趣旨になる。

釜田主任コーディネーター

補助金は、活動資金の確保だけではなく、今の体制、現状を改正する必要がある。目標を達成するための事業計画や予算、人員など総合的に整備されていないと、補助金の申請には至らない。そのためには、しっかりとした活動の目的とその目的を達成するための事業計画、それを実施する人員と金をトータルで実行する。指導できるのが補助金の一番いいところである。資金の確保だけではない。助成金学習会では、団体の課題が浮き彫りとなったとき、お金で解決できるものと、お金以外の解決策があると説明している。市民活動支援センターでも今まで聞いたことや今回のアンケート結果を踏まえて、振り返ってみたいと思っている。

芝田委員

新規に組織を立ち上げるという事は、まず人材。それから、資金がどうしてもほしいというところからスタートする。私個人からすれば、まず組織を一つ作るためには、人と資金を作ってからスタートしているはずである。組織を作って、1年目から金が足りないからと補助するというのはいかがなものかと思う。設立年数5年未満といっても3年目あたりで、初めて資金不足に行き当たるのではないかと思う。1年目で資金が足りないというのであれば、最初から組織は作れない。すぐ、初期資金を求めるとするのは、立ち上げるとき、準備不足ではないかと思う。準備不足の組織は早く消滅してしまう。お茶がほしいとか交通費がほしいというところからスタートする組織は、長続きできない。そういう考え方を持っているのであれば、ボランティア組織などやめたほうがいいと思っている。

釜田主任コーディネーター

「市民活動団体とは」「ボランティア団体とは」というところですね。活動資金の原資は、基本的には会費、寄付金、イベントの参加費などを考えながら行っていないとできない。お金を当てにして何かを実施しようとすると、芝田委員が言ったように、活動が難しくなってくる。市民活動支援センターの方では、どのような目的か、達成するにはどうしたいかなど、詳細に聞いている。

議長（竹澤会長）

アンケートを実施して、まず現状を把握すること。結果を見て制度の見直し

が必要であれば、つなげていくということによろしいか。

ほかに意見がないようなので、報告事項(5)については、以上を報告事項とする。

報告事項(7) 市民活動支援センター運営協議会委員の改選について

(資料 報告 7) - 1 ~ 2)

議長 (竹澤会長)

報告事項(7)について説明を求めた。

須賀課長

報告事項(7) 市民活動支援センター運営協議会委員の改選についてを説明した。

議長 (竹澤会長)

報告事項(7)について、委員に意見を求めた。

芝田委員

後で個人的に説明をしていただけるのか。

須賀課長

各個人の事情等もあると思うので、個々に連絡させていただく。

議長 (竹澤会長)

人によっては、幾つか重要な活動を受け持っている方もいると思う。そのような中で協議会の趣旨を理解していただいて、委員になっていただいているというのが現状だと思う。武智委員はいかがですか。

武智委員

皆様御存じのように、根本市長のときから委員に選んでいただいて、「どういものが支援活動なんだ、それを運営していくような組織ができるんだろうか」という話を、前市長と時間をかけて話合いをした。近隣市などの状況を調査しながら、野田の状況を分析した。「野田は、他市に比べて遅い。急いで団体を立ち上げませんか」と言われ、スタートしたという記憶がある。本当に長い間、委員をさせていただき大変光栄に思っている。いずれにしても年齢からいっても、いろいろな考え方を含めて限界だと思っている。進退については伝えてあるため、そのように進めてほしいと思う。

議長 (竹澤委員)

健康上の問題は、生活にも関わってくる。身体第一ということで頑張ってい

ただければ有り難いと思っている。個別に後で連絡するということでした。よろしいですか。御足労願いますが、お願いします。

ほかに意見がないようなので、報告事項(7)については、以上を報告事項とする。

岡田課長補佐

次回の運営協議会の日程について、令和6年1月24日（水）に開催したいと考えている。時間は午前10時から、場所は8階大会議室で開催したい。

次回議題については、元気アップふえすたの開催結果と、令和6年度事業計画案等についてを予定している。

議長（竹澤会長）

次回の運営協議会の日程について、委員に問うた。

《各委員に確認》

委員に問うた結果、1月24日（水）に決定する。

議長（竹澤会長）

会議の閉会を宣言した。